

## 平成 26 年度第 4 回浜松市創造都市推進会議 議事録

日 時：平成 27 年 2 月 2 日（月）午後 5 時 00 分～午後 6 時 51 分

場 所：浜松市役所本館 5 階 庁議室

出席者：根本敏行会長、寺田賢次副会長、和久田明弘委員、空屋英夫委員、桧森隆一委員、海野敏夫監事、川嶋朗夫監事  
（オブザーバー）

影山伸枝創造都市推進担当課長、石塚良明国際課長、森田孔二文化政策課長、  
瀧下且元産業振興課長、石川淳観光交流課長

欠席者：安形秀幸委員

報道関係：2 人

事務局：影山伸枝創造都市推進担当課長、影山元紀副主幹、宮木広由、辻昌孝、外山裕太、藤谷佳澄（以上、企画課創造都市推進グループ）  
鈴木三男文化政策課長補佐

### 1 開会

（事務局 影山元紀）

本日はお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。ただ今から、第 4 回浜松市創造都市推進会議をはじめさせていただきます。本日は、安形秀幸委員が欠席されていますが、過半数を超える全員の委員にご参加いただいておりますので、会議が成立していることを報告させていただきます。

次に、会議資料について確認いたします。

（事務局から配付資料確認）

それでは、ここからの進行は根本会長にお願いいたします。

### 2 議事

（根本会長）

それでは最初に報告事項から参ります。「ユネスコ創造都市ネットワーク加盟について」事務局から報告をお願いします。

（事務局宮木から資料 1「ユネスコ創造都市ネットワーク加盟について」の報告）

（特段の質問がなかったため、報告を終了した）

（根本会長）

続きまして「音楽専門部会の活動について」事務局から報告をお願いします。

（事務局鈴木から資料 2「音楽専門部会の活動について」の報告）

(根本会長)

コンサートから交流、サウンドデザインというようにサブテーマが出てきました。音楽は柱ですが、音楽だけではないと思うのです。音楽を核として幅広い交流に結び付けていくということがちゃんと資料に出ていると思いました。ツーリズムやカンファレンスなど、産業や地域経済への波及効果が大きい期待できるのではないのでしょうか。サウンドデザインは、ユニークで浜松らしい提案です。メディアアートでは札幌市があるし、音楽分野でもグラスゴーやハノーバーなどものづくりの得意な都市もありますから、メディアアートやデザイン、クラフトなど奥行きと幅のあるいろいろな領域との交流を広げていくことで大きな波及効果につながっていくといいなと思いました。創造都市推進会議としてもこの方向に沿って音楽専門部会とともに活動を深めていくことは必要です。

(桧森委員)

「世界で活躍する音楽人材の輩出」について、ピアノコンクール以外にどのように考えていますか。

(事務局 鈴木)

音楽人材育成についての議論もスタートしています。グラスゴー会議でも、2012年にゲント、ボゴタ、グラスゴー、セビリアが音楽教育等に関する相互協定を結んだゲント宣言がありますが、今回音楽都市が9都市になりましたので、リバイスをかけていきます。歴史のある教育のリソースを持った地域があるので、浜松もネットワークを活用し、由緒ある音楽院に人材を派遣するなど、有益なリソースを有効に活用させていただくのがひとつの大きな方法として考えられます。

(根本会長)

今後、アジアも含めていくつかの都市がネットワーク加盟に向けて動き出すと思います。国際的な交流をするときには、既にネットワークに加盟している都市はもとより、これから加盟が望まれる都市とも親交を深めて応援団になり、仲間を広げていくチャンスであると思います。

(和久田委員)

ユネスコ音楽都市はままつ実行委員会を立ち上げるというが、この実行委員会と今ある専門部会との関係はどうなるのでしょうか。

また、ユネスコに加盟して、ご挨拶かたがたフォーラムや世界音楽の祭典をすることは分かりますが、「新たな音楽産業の創出」にまで踏み込んでいくと分りにくいと思います。アクションプログラムの中の(5)の柱「創造都市ネットワークを軸とした発信・交流・連携」にとどめていけば分りはいいのですが、次の段階にいて「新しい音楽文化の創造」「音楽人材の輩出」となると整理が分りにくいという思いがします。

(事務局 影山元紀)

6月に開催しました第2回推進会議におきまして、音楽専門部会の設置を提案させていただきました。その際のイメージとしまして、音楽に関する創造都市事業の推進、国際的音楽イベントの企画、音楽に関する高等教育機関の検討などをする機関としての設置を提案させていただきました。実際の事業実施に当たりましては、当事者となる市民・企業など多様な主体の参画を図りたいということもあり、別に実行委員会形式での開催をさせていただきたいと考えています。専門部会ではあくまで案の企画、方向性を議論いただくように整理をしています。

(根本会長)

ユネスコ音楽都市はままつ推進事業実行委員会と音楽専門部会との関係はどうなりますか。メンバーが概ねかぶっているとか、音楽専門部会の下に置かれるのか、脇に置かれるのか、別途に作るものなのか、そのあたりはどうでしょうか。

(事務局 影山元紀)

音楽専門部会とは別に立ち上げたいと考えます。委員は音楽専門部会とかぶるのかどうかという点も含めてこれから調整をしていきます。今のところまだ実行委員としてどなたに参加いただくのかは決まっておられません。

(そのほか特段の質問がなかったため、報告を終了した)

(根本会長)

それでは、審議事項「『創造都市・浜松』推進アクションプログラム(案)について」、事務局から説明をお願いいたします。

(事務局宮木から資料3「『創造都市・浜松』推進アクションプログラム(案)について」及び資料4「アクションプログラム変更箇所」の説明)

(桧森委員)

モニタリングについて、創造都市の成果としては創造産業がどれだけ増えたのかを追求する必要があります。「創造産業」を厳格に定義した上で、その事業者数が減っているのか増えているのか、何らかの方法でモニタリングできないでしょうか。「創造産業」の中に何を含めるのか、あるいは既存の統計との整合の中で何を創造産業というのか、非常に曖昧になっていますが、そこを厳格に定義した上でそれが増えているのか減っているのか、調べる必要があります。

文化事業件数については、文化事業は目的ではなく手段だと思います。件数が増えて何が起こったのかということを見ないといけません。やった結果がどうであったかは、別の指標が必要ではないでしょうか。

(根本会長)

前者については、毎年の新規開業など手がかりはあるのではないかと思います。後者の

ご指摘は何を何回やりましたというアウトプットだけではなく、その結果、文化の充実度などアウトカムについてですね。ヒントになるか分かりませんが、新聞等のパブリシティをカウントする手法がある。記事として取り上げるのは、社会がどれほど認知したかというひとつの指標になると思います。全国紙 4 紙と静岡新聞、中日新聞くらいでいいと思います。どの範囲をカウントしているのかということを経存の統計と整合を図って。浜松が「我々はこの範囲をカウントしています」と定義してしまってもいいです。

(海野監事)

「ユネスコ音楽都市はままつ推進事業」の中で、ホップステップジャンプといった具合にサウンドデザインフェスティバルまで計画されています。先ほどの和久田委員の意見と私は違いますが、メディアアートとのコラボレーションなども大いに結構ではないかと思えます。現代のアート、特に音楽はいろいろな分野とコラボレーションして発展するだろうと思えますし、既にそういうことも行われています。今後はますますそういう機会が増えます。他分野とのコラボレーションのきっかけを作るのは、今後の発展形態を考えると大いに結構です。3本柱「音楽文化」「音楽人材」「音楽産業」とありますが、産業は今申しあげた分野などと一緒になって考えていく時代が既に来ていると思えます。

(和久田委員)

趣旨は私も賛成です。見せ方として、市民の皆さんがこれで分かるのかが心配です。たとえば「創造都市を進めている」ことと「ユネスコネットワークに音楽分野に加盟しました」ということの関係性ですとか。実行委員会が三つの事業をやる、それは分かります。実行委員会は実際に事業をやる場所なので、こうしたことを加味しながらやるのはいいことだと思います。資料 2 の 2 ページ目に目的を出しているのが分かりにくいのではないかと思います。これは音楽専門部会で検討すべき内容であって、この下に実施主体として実行委員会となっているので分かりにくくなっているなという思いがしたのです。音楽専門部会で方向性を出し、3年間で実行委員会が三つの事業をやっていくという説明をしていただければ分かりよいと思います。

(根本会長)

推進会議があり、音楽専門部会があって、実行委員会がある。この辺の関係性を市民の皆さんに分かりやすく受け止めてもらうために今後広報する必要があります。全体の司令塔は推進会議であるので、こういうシナリオでこう展開するという事は一本で出せるとよいと思います。

(桧森委員)

サウンドデザインフェスティバルとあるが、渋谷慶一郎さんの初音ミクのオペラのようなものが浜松から出てこない、なかなか成果は目に見えないものです。それを作れる具体的な体制ができるのかどうか、作品を制作して打ち出すという観点からどのように考えているのでしょうか。

(根本会長)

新しい領域を切り拓いたり、国際的にも注目されるようなチャレンジをこの浜松の地で生み出す舞台であるとか仕組みであるとかについて考えはあるかということですね。これから考えるということかもしれませんが、委員の皆さんでも構いませんが、何かありますか。

(事務局 鈴木)

連携の中で探っていくしかありません。「創造都市ネットワークを軸とした発信・交流・連携」の中に既に申しあげているように、音楽を軸としつつもそれ以外の 6 分野と相互連携していくというのがユネスコのミッションでありますので、シンポジウムに初音ミク開発会社の社長さんをお呼びするか、武邑先生をお呼びするかといったコラボレーションを進めていくのもひとつの手です。また、ユネスコの創造都市の中でもボローニャがロボットフェスティバルという音楽とデジタルアートが融合したフェスティバルを既に 7 回ほど展開しております。今回加盟したドイツ勢も、バイオリンなどクラシックのコンテストも有名ですが、1950 年代にドイツから電子音楽の開発者が出てきたということもあり、アートと音楽が融合した流れもできています。どういったプラットフォームを作るのか、人材を掘り起こし、事業をやりながら生み出していくしかないので、創造都市推進会議の中でもこういった議論が必要になってくると思われます。

(根本会長)

ポテンシャルとして、マグマのように下にあることは今の説明で皆さんご理解いただけたことと思います。個人的な意見ですが、ひとつは、トップレベルのクリエイティブな人材は、他の人材との出会いからスタートすることが多いと思います。六本木で飲んでいたらたまたま会って「よしやろう」と決まってしまうとか。クリエイティブな人材同士が意気投合して始めることができるような雰囲気があるといいのかなと思います。

もうひとつ、楽器メーカーはもとよりそこにお金がついてこないといけません。「よしやっちゃえ」と予算がつくなど、他の都市では動きが鈍いが浜松に行くのと動けるぞということになれば、挑戦的なプログラムが出てきて、それが引き金となって経済波及効果になると思います。文芸大でもそのようなプラットフォームが提供できれば、ぜひ提供したいと思います。

(空屋委員)

モニタリングの「付加価値額の算出」については、京都の商工会議所が知恵ビジネスを推進しているという話を前回しましたが、その後京都の会議所の職員が来まして、勉強会を行いました。その中で京都と浜松の比較の数字が出まして、製造品出荷額であるとか粗付加価値額であるとか、あるいは付加価値率という数字が出ています。これがどのようなものか調査不足で発表できないのですが、京都の会議所は比較をしていますので、調査をさせていただこうかなと思います。この辺の数字は捉えていますでしょうか。

(根本会長)

では、それは宿題として事務局で承っておいてください。合併して政令指定都市になりましたので、統計データによっては、通常の市町はとらないけど政令指定都市はとっているケースがあったりします。そうすると、浜松の場合はあるところから不連続になりますね。日本でも有数の巨大な市になり、ひとつの県と言ってもいいくらいの範囲ですから、気にするのはオール浜松での統計の数字と旧浜松の数字。文化的集積度は旧浜松のほうが高いでしょうし、逆にローカルな民俗文化は天竜川上流のほうにもたくさんあるし、それをどの数字で出すのか、どの範囲で出すのかというのもちょっと気になるところであります。今ここでどうということではありませんが、大きい市になったので統計の数字を見るときには気をつけてみる方がいいのではないかと思います。

(事務局 影山元紀)

京都市と浜松の比較については、おそらく従前の工業統計の数字を拾ってきているのかと思われます。統計法の改正によりまして商業統計や工業統計が経済センサスにまとめられております。その中でうまくお示しできるものがあるのかないのか、今後の課題としてもう少し突っ込んだ検証を行って改めてご報告させていただきます。

(根本会長)

アクションプログラムの変更について削除箇所が多いことが気になります。しかるべき理由があって整理したということですが、特に(2)の「インクルージョンの実現」、(3)の「多文化共生センター運営事業」については、非常に多様な市民がいるということが浜松の特色であり課題でもあります。これ自体を元に戻すということではありませんが、全体にかかることであるのなら、全体にかかる記述のどこかに記載していただきたいです。創造都市政策は都市の課題解決に資するという点がとても大事で、どんな課題を持っているのか、それに対して文化政策の面でどうやって解決に向かうのか。インクルージョンとか多文化共生は見えていたほうがいいのではないかと思います。項目の整理整頓は必要ですが、どこかに残しておいたほうがいいと思います。

(寺田副会長)

グラスゴー会議に参加してきました。その中でも評価について検討していますが、非常に難しいと実感しました。総合計画を作成し、その推進プランを今作っているところですが、その評価指標とこのアクションプログラムの評価は重なる部分があります。新規事業所届出件数などはまったく同じです。創造産業を厳格に定義したうえで評価していくというのは理想なので、そういう点でもう少し的を絞ったほうがいいのかなども感じました。

(根本会長)

創造産業の定義というのはいくつかあります。ある程度社会的に認知されたものをベースにして定点観測的にやっていけば、何とかできるのではないかと思います。

浜松マイスター推進事業が削除となっておりますが、浜松には国際級のすごい職人さんがおられるので、この項目として整理するのはいいのですがどこかに残しておけないかな

と思いました。

(川嶋監事)

指標とすると限定して絞り込むのがいいかと思うのですが、モニタリングであれば多めに考えておくのがかえってよいのではないのでしょうか。モニタリングであれば、同じ浜松の経年比較も必要であろうし、他都市との比較も必要です。どこにでもあるものを幅広くに取り上げ、しばらくやってみて意味があるものを生き残らせるというようなことでもいいと思います。そのために大きい調査をやって作るような指標でなく、どこかにある統計指標であれば幅広くに取り上げておき、その他の創造都市に提案してモニタリングのルール化をするのもいいです。長期的に見て文化版の産業連関表を作るようなネタになるのであれば、予算を要求する上でも文化が金食い虫ではなく社会的な貢献があることを説明しやすくなると思います。そういう意味では幅広くモニタリングするという方法もあるのではないかと感じました。

(根本会長)

今のは矛盾する意見ではありません。たとえば、新規開業率であれば大きい枠の数字とその中である特定領域の数字とを両方モニタリングしておけばいい訳です。それで他都市との比較とか海外との比較とかいろいろできるのです。最初からこれしかしないよというのではなく、少し視野を広くしておいて、ただ公式なデータとして発表するものは精選して発表していくというように段階的に取り組んでいけば決して矛盾しないと思います。

(事務局 影山元紀)

モニタリングについて補足させていただきます。経済センサスなどは5年に一度であり、毎年モニタリングをしていこうとしても、以前の数字しかお示しできなくなります。モニタリングであれば基本的に毎年数字を拾えるものが必要であると考えています。それとは別に、桧森委員や川嶋監事がおっしゃるように追加すべき参考の数字があれば当然そういったものに関しては別にお示ししていくという形で今後モニタリングや事業に対する評価を行っていただきたいと考えております。

(そのほかの意見・質問は別に事務局に寄せていただくようにとの根本会長の発言により、審議を終了した)

(根本会長)

それでは次にアーツカウンシルの関連です。前回会議の中で和久田委員から、音楽専門部会は先行してやっているがほかの分野についてはどうかのご指摘もありました。そこで、今回は特に中間支援、アーツカウンシルといったことについて議論の準備をしました。事務局から説明をお願いします。

(事務局影山元紀から資料5「中間支援組織・アーツカウンシル等の検討について(案)」及び資料5補足「クリエイティブミリュについて」の説明)

(事務局 影山元紀)

「創造的環境整備専門部会」については、調査検討のための専門部会というイメージを持っています。専門部会設置については議決事項になりますので次回以降の推進会議の中で改めて具体的な案は示させていただきたいと思います。まずは検討事項や委員候補などについて委員の皆さんの意見交換をお願いできればと思います。

(根本会長)

関連して、桧森委員が他都市の事例やアーツカウンシルに関する情報をまとめてくださいましたので、あわせてご説明を頂戴しまして、その後まとめて意見交換させていただきます。

(桧森委員から資料「アーツカウンシルと中間支援組織」についての説明)

(根本会長)

グラスゴーにはスコットランドアーツカウンシルも入っているんですね。

(事務局 鈴木)

今回の「ケルティック・コネクション」という音楽事業についてはブリティッシュアーツカウンシルも関係していました。CCA というアートセンターに近いものが街にはありました。また、「グラスゴーライフ」という組織が指定管理者のようにやっていますが、9つの文化施設をネットワーク化しており、音楽だけでなく9つのアート施設をマネジメントしている訳です。佐々木先生からブリティッシュカウンシルの専門の方が東京にいらっしゃるということを聞いており、その方をお呼びしてこの場で話していただくのもいいかもしれません。

(川嶋監事)

そもそも専門部会を作る必要はありますでしょうか。推進会議にない知識経験を持った方が必要であればということで、音楽専門部会は分かりやすいですが、根本先生、海野先生、桧森先生がいらっしゃる中で、別に部会を作るのは屋上屋をつくることにならないでしょうか。本会で議論すべきような、レベルとしては非常に大事な根本的な話であって、専門部会でやるものではないような気がします。このような議論は当然必要なものですが、専門部会を作る必要があるかどうかは少しお考えいただければと思います。先生方非常に忙しい中で恐縮ではありますが、本会で議論するという選択肢もあっていいかなと感じました。

(根本会長)

一般論としては、あまりたくさん部会などを作らない方がすっきりいくとは思いますが。可能性としては、推進会議に少しメンバーを加えてアーツカウンシルの議題のときだけ拡大で行うやり方もあるかもしれませんね。

(桧森委員)



大阪の事例でもそうだが、本当にアーツカウンシルを作るということになる、かなり広範な人たちが参加した議論が必要です。街の中からそういうものが需要だという機運が盛り上がってこないとなかなかできません。今はまだ調査研究の段階だからいいのですが、実際に作ろうというアクションの段階になったときには全市的な盛り上がりが必要になってきます。

また、もし専門部会を作るとなれば、浜松市内ではこのほかに文芸大の先生くらいしかない、よそから来てもらう必要があると思います。

(根本会長)

コンセプトを考えるにはこのテーブルも使えるかもしれないと思ったのですが、実際にものを作るとなるとおっしゃるようなこともありますね。

桧森委員のプレゼンにもありましたが、目的をどうするかですよね。創造都市の政策のために作るならばこの推進会議でカバーするというやり方もあります。でもアーツカウンシルのほうが歴史は古いんですよ。なにも創造都市や音楽のためにやっている訳ではなくて広範な都市政策の中での広い意味でのアーツなので、創造都市推進会議のコンセプトの中だけで決められるかなというのも気になる場所ですね。ただ、目標をはっきりさせるという意味でネットワーク加盟をひとつのチャンスと捉えて、ここが推進役として旗を振るとい進め方はあっていいと思います。ことは音楽で済まなくなるので、市の美術館などあらゆるセクターがきちんとコンセプトをすり合わせて合意しないと発足できないですね。

(海野監事)

桧森先生の説明からすると本質的には独立性が重要で、そうすると資料5の2ページ目の組織図はなかなか難しいのかなという気がしますね。もう少し議論すべきだと思いますけど、作るのであれば当然推進会議とは関連するけれど、組織図としては推進会議の下に入るのではなくて、独立した方が正しいような気がします。

(根本会長)

非常に広いので、創造都市推進会議の下に置くというよりは、市の政策としてという部分がどうしても出てくるでしょうね。議論するのであれば、「創造都市を推進する立場から見るとアーツカウンシルはこうあってほしい」ということは議論できますけど、それだけで「市のアーツカウンシルはこうでございます」ということにはなかなかならないかもしれないという気がしました。

(根本会長)

「日本式」が付くと変質するというのはこの分野でもそうなんだろうけど、歴史的には政治が芸術を利用するということの反省があったということで、そもそもイギリスではほかの分野でも政府から独立した委員会がいろんなことをやるんですよ。国情の違いがありますので、すぐにコピーして持ってくるという訳にはいきません。韓国や中国は熱心なんですよ、国家の意図を世界中に宣伝するために税金を使ってやるやり方です。日本

は政府から独立したイギリス式の色が残るんだろうと思うのですが。

(根本会長)

県が別の文脈でアーツカウンシルをキーワードとした政策を始めています。文芸大では片山先生がそこに関わっています。県立の大学としてこのアーツカウンシルに参加する、検討の一端に加わるという状況がありますので、ぜひ県の動きも脇で見ながらアーツカウンシルの議論を進めていければと思います。

(根本会長)

平成 27 年度いっぱいをかけて、居場所をどうするか、目標をどう考えるかということについて、もう少し議論する必要があるかと思います。

(そのほかの意見は別に事務局に寄せていただくようにとの根本会長の発言により、意見交換を終了した)

### 3 その他

(事務局宮木から『全国アート NPO フォーラム in 浜松』の開催について)の紹介)

(根本会長)

「オリンピック」「パラリンピック」がセットであるように、音楽祭でも「音楽のパラリンピック」のように社会包摂のイメージも取り込んだイベントが将来できるといいかなと思いました。

(そのほかの特段の発言がなかったため、紹介を終了した)

### 4 閉会

(根本会長)

本日の議事は以上でございます。それでは、浜松市創造都市推進会議の第 4 回会議をこれで終了いたします。